

# 再造林や「緑の循環システム」の推進は

## 町長 初期の保育施業のかさ上げ補助を検討

**森林境界明確化の現状は**

**問** 森林境界明確化について、平成28年度は計画以上の実績があった。今年度の状況は。

**町長** 境界明確化モデル事業として平成28年度までの3年間で計176ヘクタールを実施した。今年度は、滝野地区で50ヘクタールの境界明確化を進めている。作業が完了した地区では「森林経営計画」を策定することにより、国の補助事業の活用が可能となる。補助を活用し、利用間伐や作業



渡部善美議員

道などの路網整備を行うことで効率的な作業が可能となり、間伐材の売却益を森林所有者に還元していくことも可能となる。

**問伐の取り組み状況は**

**問** 町内の間伐の取り組み状況と課題をうかがう。

**町長** 平成27年度以降、およそ59ヘクタールほどの間伐が実施された。近年、地域の方が積極的に間伐などの森林整備に関わるようになってきたと思われる。課題としては、所有者や境界が不明確であ

るため間伐が実施できないことや、森林に全く関心のない所有者の方がいることである。

**「緑の循環システム」の推進は**

**問** 再造林や「緑の循環システム」をどのように推進していくのか。

**町長** 林業経営では、再造林に係る初期費用が最もコストが高いといわれている。再造林せず伐採したまま放置されることが多く、その影響が懸念される中、再造林費を助成する施策が打ち出された。植林後の保育経費として、下刈り・除伐・枝打ち・間伐などの作業に係る費用が必要になる。「緑の循環システム」の加速化のために、初期の保育施業のかさ上げ補助を検討したい。



路網整備の推進を！



間伐によって日光が根元に